

点検・診断から措置（補修）までの流れ

事例1
橋りょうの塗装



点検・診断

橋りょう点検車等を用いて損傷の状況等を確認し、健全度を判定。



補修前

塗装が劣化して防食機能が低下し、部分的に部材の表面に腐食（錆び）が発生。



補修後

古い塗装を剥がし、塗装を塗り替えることによって、防食機能を回復。

事例2
トンネルの剥落防止



点検・診断

高所作業車等を用いて内面の変状や附属物の状況等を確認し、健全度を判定。



補修前

トンネル内面のコンクリートに浮き（空洞）が発生。



補修後

損傷が発生している箇所にメッシュシートを貼り付けてコンクリートの剥落を防止。

事例3
下水管の改築



点検・診断

自走式テレビカメラ等を用いて管内部の劣化の状況を確認し、健全度を判定。



補修前

硫化水素の影響により、下水管内面のコンクリートに腐食が発生。



補修後

劣化した管を掘り起こさずに、内部を腐食に強い材料で巻き立て、腐食を防止。

TOPIC デジタル技術を活用したインフラメンテナンス③

AIによる「消えかけ白線ゼロ」

県警察が車両にスマートフォンを搭載して撮影した画像を基に、AIを活用して取得した路面標示（中央線、区画線等）の摩耗状況データを、補修に活用しています。



車に搭載したスマートフォンで撮影



AIを活用し、路面標示の摩耗状況を判定



路面標示を補修

安全で安心な インフラを目指して

かながわのインフラメンテナンスの取組



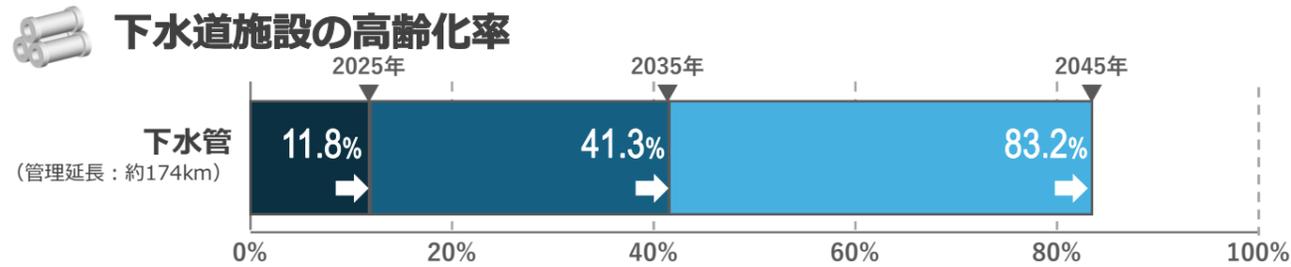
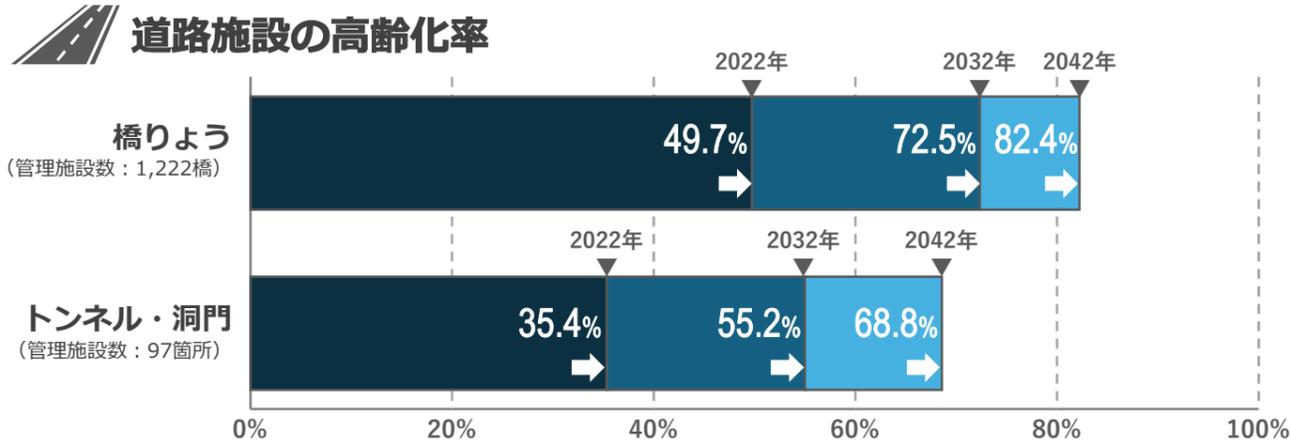
神奈川県県土整備局



県土整備局
総務室HP

かながわのインフラ施設の状況

県が管理する道路や下水道などのインフラ施設は、高度経済成長期に集中的に建設されたものが多く、例えば、橋りょうは、建設後50年以上経過した施設の割合を示す高齢化率が2022年3月時点で約50%ですが、20年後には、約82%まで増加します。

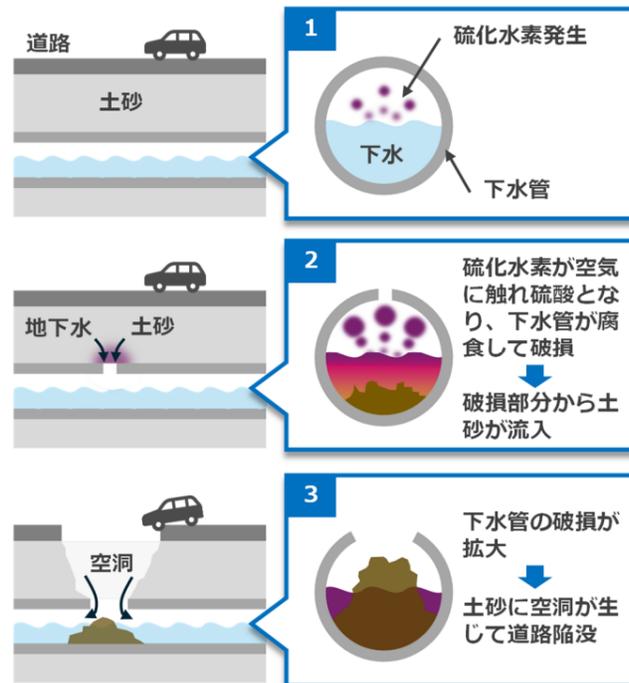


インフラ施設は、適切なメンテナンスをせずに放置すると、老朽化が進行し、事故等の発生リスクが高まるだけでなく、維持管理・更新に要する費用も増加してしまいます。

老朽化が進行すると・・・



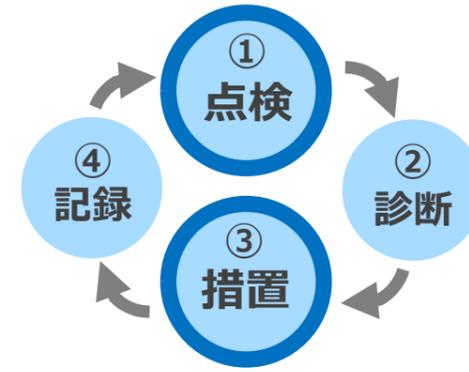
腐食により鉄製の部材が破断した状況



下水管の破損による道路陥没のイメージ

インフラメンテナンスの取組

そこで県では、下図に示すメンテナンスサイクルにより、様々な老朽化対策を実施し、施設の長寿命化を図ることで、維持管理費用の縮減や平準化を図っています。



メンテナンスサイクルのイメージ

- ① **点検** 損傷状況を把握するため、定期的に施設の点検を実施する。
- ② **診断** 点検結果に基づき、損傷原因などを踏まえ、健全度を判定する。
- ③ **措置** 診断結果に応じて、適切な時期に補修・部材交換等の措置を実施する。
- ④ **記録** 点検・診断・措置の結果を記録して蓄積し、以後の維持管理に活用する。

点検の種類と内容

施設	管理数など (令和7年3月現在)	点検内容	頻度
道路	道路全般	パトロール*	週2回
	橋りょう	定期点検	5年に1回
	トンネル・洞門	〃	〃
	横断歩道橋	〃	〃
	門型標識	〃	〃
	舗装	路面性状調査	3～5年に1回
下水道	機械・電気設備	日常点検	週1回以上
	土木・建築施設	定期点検	5～7年に1回
	下水管	〃	〃
河川	河川全般	パトロール*	月1回

事故等に起因した緊急的な点検

埼玉県八潮市の道路陥没事故 (R7.1.28) を踏まえた点検

事故発生を受け、緊急点検(流下状況調査・空洞調査)を実施し、異常がないことを確認しました。

空洞調査

*パトロールは舗装済み道路や管理施設がある河川を対象として実施。

TOPIC デジタル技術を活用したインフラメンテナンス①

ドローン等を活用した点検

橋りょうやトンネルの点検では、ドローンや3D測量ができる車両などを活用しています。

ドローンによる点検 3D測量による計測

TOPIC デジタル技術を活用したインフラメンテナンス②

道路損傷通報システム

道路の異常を早期に把握し、解決するため、スマートフォンを使った通報システムを運用しています。

発見 → 通報 → 解決

詳細及びアプリのダウンロードはこちら